

器械のピッキング作業がしやすく片付けやすい環境を整える

後藤 順子 河村 智子 小森 美弥子
宮川 加代子 太田 美代子 太田 華世

要旨：手術を行う上で必要不可欠なものに鋼製器械があり、現在当院には約700種類の器械が滅菌され、クリーンホールに保管されている。手術の際は、術式ごとに作成されたマニュアルに沿って、何種類もある器械の中から必要な器械を集めていく。しかし、器械が元の場所に戻っていかず、収納場所が各科毎にまとまっていない器械もあり、ピッキング作業に時間を要することもあった。また、多くの鋼製器械が一つのケースにまとめて収納されている場合には、滅菌袋の破損の原因にもなっていた。そのため、滅菌物のピッキング作業がしやすく、片付けやすい環境を整えたいと考え、QC手法を用いて改善活動を行った。小分けできる収納ケースを準備し、鋼製器械を小分けしたのち、器械棚と収納ケースそれぞれに器械名を表示したり、棚別と50音別の索引を作成するなどの対策を行った。その結果、ピッキング作業がしやすくなったとともに、ピッキング作業に要する時間も短縮出来た。また、索引を作成したことで、器械の管理がしやすくなった。

【はじめに】

当手術を行う上で必要不可欠なものとして鋼製器械がある。当院には約700種類の器械が滅菌されており、そのすべてがクリーンホールに収納されている。手術の際は、術式ごとに作成されたマニュアルに沿って、何種類もある器械の中から必要な器械を集めていく。しかし、必要な器械を取り出したり片付けるのに時間がかかったり、器械が元の収納場所に戻らないため、必要な器械をすぐに見つけられないこともあった。また滅菌袋が破損していたために、再滅菌を依頼することもあった。新しく購入された器械は空いているスペースに入れるしかなく、各科ごとの統一性もなかった。

そこで滅菌物のピッキング作業がしやすく片付けやすい環境を整えたいと考え、QC手法を用いた改善活動を行ったので、その取り組みについて報告する。

【目 的】

滅菌物のピッキング作業がしやすく、片付けやすい環境を整える。

【対 策】

- ① 各科器械の収納場所と手術部屋の位置を見直す。(図1)
- ② 一つのケースに収納してある器械の数を減らし、いくつかのケースに小分けする。(図2)
- ③ 器械名と定数を器械棚と収納ケースに明示する。(図3)
- ④ 棚別と50音別の索引を作成する。(図4,5)
- ⑤ 索引に明示してある器械名と手術マニュアルにある器械名を統一する。

【結果・考察】

- ① 器械をクリーンホールに取りに行く際に、手術部屋からの動線が短くなった。
- ② 必要な器械が探しやすく、取り出しやすくなった。また、欠品している器械が分かりやすくなった。器械が種類別に分けられている

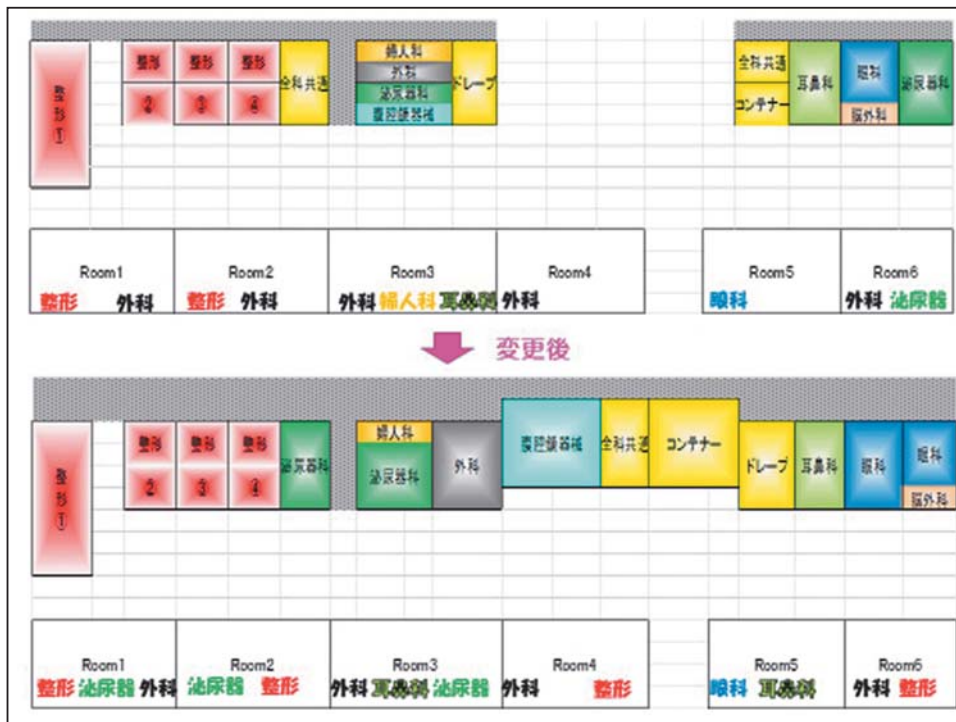


図1 手術室クリーンホール



図2 対策①

ため見やすくなり、器械の保管状態が良くなったことで、滅菌袋の破損もなくなった。また、見た目にもきれいになった。

- ③ 誰でも迷いなく器械が取り出せ、棚に戻しやすくなった。以前は、鋼製器械が別の場所に戻され、次回使用する際に器械の所在を探すこともあったが、必ず元の場所に戻るよう

になったため、ピッキング作業時間の短縮にもつながった。

- ④ 索引を見れば、どこの棚に何の器械が収納されているのかが分かるため、器械が探しやすくなったとともに、器械の管理がしやすくなった。また、定数チェックや期限切れチェックがしやすくなった。



図3 対策②

種別索引			五十音順索引		
A-1-1	お	オスティーカトハンドル	う	ウエイトナー 大	A-1-3
A-1-1	お	オスティーカトの針 14G・16G	う	ウエイトナー 中鏡	A-1-3
A-1-1	ほ	パイオベックスガン	う	ウエイトナー 小	A-1-3
A-1-2	え	板巻 2/0 曲	え	板巻 2/0 曲	A-1-2
A-1-2	え	板巻 2/0 直	え	板巻 2/0 直	A-1-2
A-1-2	え	板巻 0 直	え	板巻 0 直	A-1-2
A-1-2	け	ゲルビー 大	え	エレボリウム	A-1-3
A-1-2	け	ゲルビー 小	お	オスティーカトハンドル	A-1-1
A-1-2	こ	歯板剥離子 鏡	お	オスティーカトの針 14G・16G	A-1-1
A-1-2	こ	歯板剥離子 鏡	き	金属ハンマー	A-1-6
A-1-2	こ	骨ヤスリ 大	け	ゲルビー 大	A-1-2
A-1-2	こ	骨ヤスリ 小	け	ゲルビー 小	A-1-2
A-1-2	こ	コブエレベーター 大	こ	歯板剥離子 鏡	A-1-2
A-1-2	こ	コブエレベーター 小	こ	歯板剥離子 鏡	A-1-2
A-1-2	し	神経剥離子 ミズホ	こ	骨ヤスリ 大	A-1-2
A-1-2	し	神経剥離子 First	こ	骨ヤスリ 小	A-1-2
A-1-2	り	裏剥離子	こ	コブエレベーター 大	A-1-2
A-1-3	う	ウエイトナー 大	こ	コブエレベーター 小	A-1-2

図4 対策③

⑤ 以前は手術マニュアルに明示してある器械と滅菌棚や収納ケースに明示している器械名が違っている物があったため、ピッキング作業に時間を要することもあったが、器械名が統一されたことで、ピッキング作業時間の短縮につながった。
以上のことから、今回行った①～⑤の対策は、

目的を達成するうえで効果があったと考える。

【結 論】

1. 器械の収納数を考え小分けしたことは、ピッキングがしやすくなるとともに器械の保管状態もよくなる。
2. 器械棚及び収納ケースそれぞれに器械名を

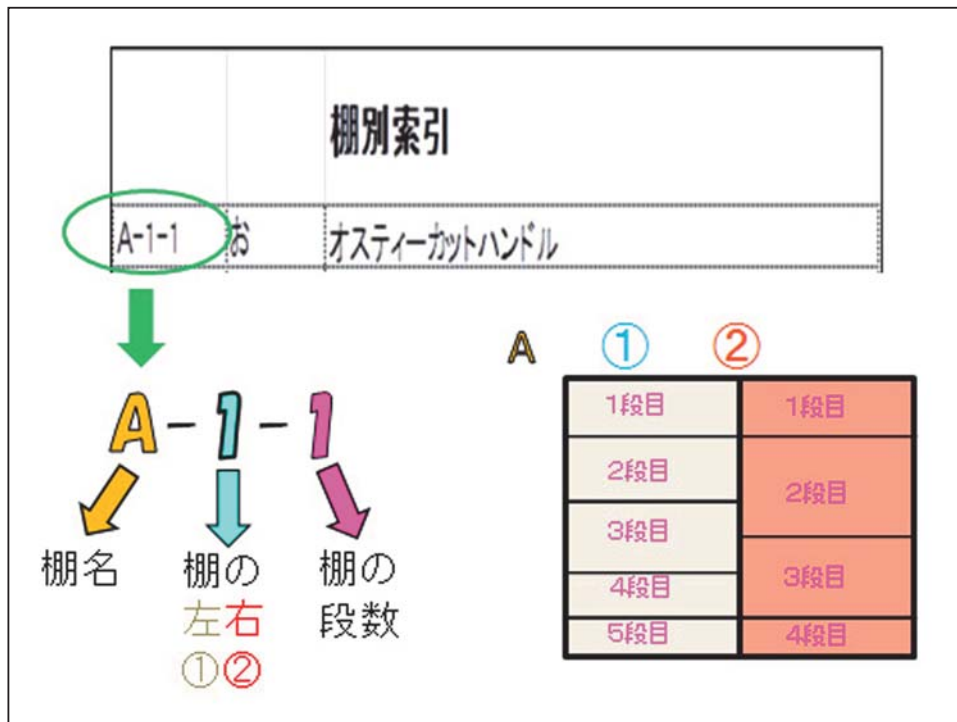


図5 対策④

明示したことは、ピッキング作業時間の短縮につながる。

3. 棚別・50音別の索引を作成したことは、器械の定数や滅菌期限切れの確認などの管理がしやすくなる。
4. 索引の器械名と手術マニュアルの器械名を統一したことは、ピッキング作業時間の短縮につながる。

【今後の課題】

1. 新規器械は必ず索引へ追加し、収納位置が決まったら、器械棚及び収納ケースそれぞれにラベルを貼付する。
2. 手術マニュアルを新規作成または修正する場合は、索引の器械名と手術マニュアルの器械名は同一名で作成する。
3. 修理などの理由で欠品している器械は、欠品していることがわかるように、修理中のプレートを入れる。